

## フジコナカイガラムシの生態と防除

南信農業試験場

かきの重要害虫の一つに、フジコナカイガラムシが挙げられます。かきのヘタと果実の隙間に潜り込み、排泄物で果実を汚すため被害は甚大です。カイガラムシと言うと硬い殻を持ち、樹木に固着して動かないイメージがありますが、フジコナカイガラムシは成虫になっても自由に歩き回ります。テントウムシとそれほど変わらないスピードで歩き回る姿には驚きます。

フジコナカイガラムシは、その名の通り体の表面が粉状のロウ物質で覆われています。このロウ物質は撥水性が高く、水や農薬をはじいてしまうため、防除が非常に難しい害虫です。しかし、フジコナカイガラムシも、卵からふ化したばかりの幼虫のときは、まだロウ物質に覆われていないため、この時期の防除で効果が高くなります。

では、フジコナカイガラムシの弱点である、幼虫のふ化時期はいつなのか、園地ごとに異なる幼虫のふ化時期を、どの様に調べれば良いのでしょうか？

実は、チョウ目害虫でも利用されているフェロモントラップが利用できるのです。

驚くことに、フジコナカイガラムシの雄成虫は雌成虫とまったく形態が異なり、翅が生えていて空を飛ぶことができます。そして、雌が出す臭い「フェロモン」を頼りに飛び回り、雌を探し出して交尾をします。近年この「フェロモン」を合成した誘引剤が販売される様になりました。

雄の発生時期が分かれば、そこから温度条件を使って、幼虫のふ化時期を予測する事ができるのです。南信農業試験場では、フジコナカイガラムシの幼虫のふ化時期を予測し、その予測に基づいて効率的に防除する技術の開発に取り組んでいます。

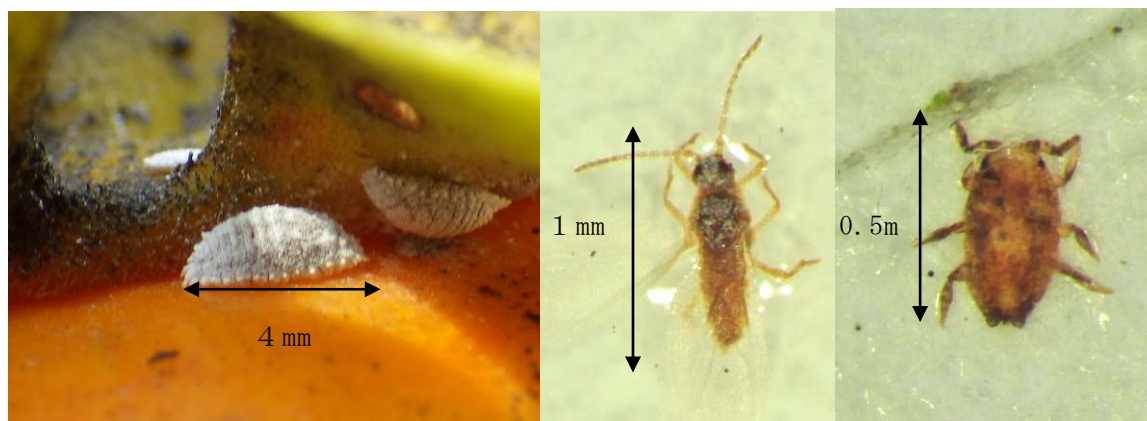


写真 フジコナカイガラムシ（左から雌成虫、雄成虫、1 齢幼虫）

担当者	布山 佳浩	電話番号	0 2 6 5 - 3 5 - 2 2 4 0
-----	-------	------	-------------------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[南信農業試験場ホームページへ](#)